



自然を育み 未来に向かって挑戦する 人にやさしいまち 伊達市



伊達市基礎データ

総人口 (住基台帳)	34,521人 (平成30年6月末)	漁獲高 (金額ベース)	1,553百万円 (平成28年北海道水産現勢)
高齢人口 (高齢化率)	12,542人、36.3% (同上)	製造品出荷額等 (総額)	24,374百万円 (平成28年経済センサス (活動調査))
世帯数	17,980世帯 (同上)	卸・小売年間販売額	84,543百万円 (平成28年経済センサス (活動調査))
面積	444.21km ²	一般会計規模 (歳出予算額ベース)	17,984百万円 (平成30年度当初予算)
人口密度	77.7人/km ²	市の木	エゾヤマザクラ、ヤマモミジ
農業産出額 (平成28年度市町村別農業産出額 (推計))	11,720百万円	市の花	ツツジ、ミヤマエンレイソウ

伊達市の紹介

平成18年3月1日、旧伊達市と旧大滝村が飛び地で合併し、現在の伊達市ができました。伊達地域は、噴火湾 (内浦湾) に面し、日本海から津軽海峡を通過する対馬暖流の影響を受け、四季を通じて温暖であり、降雪量も少なく、「北の湘南」と称されるなど、快適な居住地として知られています。また、大滝区は内陸性の気候となっており、四季がはっきりとした観光地として知られています。実は、大滝区は札幌市南区と隣接しており、伊達市は密かに札幌市の隣まちです。

三浦友和) が2代目当主) は、明治2年 (1869年) 8月、明治政府から胆振国有珠郡 (現在の伊達市) の自費による開拓の許可と支配の命を受けました。伊達家は先祖伝来の宝物や装飾、装身具の類を売り払って移住費用を捻出、翌年から9回かけて、当主、家臣とその家族約2,700人が移住し、開拓を行ったのがまちの礎となっています。困難な状況にも立ち向かう伊達市の気風は、ここに原点があるのかもしれませんが。来年は開拓から150年を迎える節目の年となり、数々の記念事業を開催する予定です。

さらに歴史を遡りますと、市内では縄文遺

歴史のまち

今年、北海道は命名150年を迎え、様々な催しが行われていますが、伊達市の開拓も同じように長い歴史を持っています。戊辰戦争に敗れた仙台藩の一門である巨理伊達家第15代当主の伊達邦成 (伊達政宗のいここであった伊達成実 (大河ドラマ「独眼竜政宗」での



春の桜と迎賓館

跡が数多く発見されていることや、大きなアイヌコタンがあったことから、昔から人が生活しやすかった地域であったことがわかります。市内にある北黄金貝塚は、ユネスコ世界文化遺産の推薦候補に選定された「北海道・北東北の縄文遺跡群」の遺跡の1つとなっており、古代縄文人の豊かな生活の一端を垣間見ることができます。

また、活火山である有珠山の麓にある有珠地区には、道内最古とも言われるお寺「善光寺」があります。ここには、アイヌ語と日本語の両方が書かれたお経の版本などが残されており、江戸時代のアイヌの人たちと和人の関係や、北海道の歴史を明らかにする貴重な証拠となる文化財が多く残された地でもあります。

だて噴火湾アートビレッジ構想

北海道の中では古い歴史文化がこのまちの特徴の一つではありますが、芸術文化にも力を入れています。伊達市では、世界で通用する芸術家の育成を目標に掲げる「だて噴火湾アートビレッジ構想」を策定し、様々な事業を進めています。その監修を行っているのが、日本の写実画の第一人者である野田弘志先生です。野田先生は、この地域で創作活動をされており、最近では天皇、皇后両陛下の肖像



だて噴火湾アートビレッジ

画を描かれたことでも有名ですが、先生自らも若手の芸術家に指導をされるなど、このまちには芸術文化の恵まれた環境も整っています。

また、来年4月には、「だて歴史文化ミュージアム」がオープンし、伊達が誇る歴史的な文化財や芸術作品を多くの皆さまにお楽しみいただけるようになります。

伊達野菜のブランド化

伊達市の基幹産業は1次産業ですが、特に、農業に特徴があります。恵まれた気象条件、土壌条件、地理的条件を活かして都市近郊型農業を確立し、野菜を中心に畑作、水稲、酪農、花きなど多角的な複合経営が展開されています。その中でも、キャベツやブロッコリー、レタスなど道内上位の生産量を誇る代表的な産品もありますが、70種類、200品目以上とも言われる「多品種多品目」の野菜を生産していることや、温暖で積雪の少ない気候を活かし、他産地より早期に出荷する「春早出し野菜」、寒い時期も安定出荷する「冬野菜」が大きな特徴となっています。地方創生においてもこの「伊達野菜」のブランド化に取り組んでおり、道の駅「だて歴史の杜」では、約80戸の農家が年間を通して色とりどりの採れたて野菜を販売し盛況をいただい



冬野菜いっぱいの道の駅

おり、今では全道の道の駅でも入込客数第1位となっています。

この伊達野菜を代表とする豊かな地域産品を活かし、「食」によるまちづくりにつなげようと、今年1月、その拠点となる「ふれあいだて歴史の杜食育センター」をオープンしました。ここは、平常時は学校給食センターとして市内と隣町の壮瞥町の子どもたちに安心・安全な給食を提供していますが、災害時等においては、1日最大約9,900食の炊き出しが可能となっており、有珠山噴火災害等にも対応できる施設となっています。また、施設内に併設するだて食育レストラン「Eスプーン」では、その日の給食はもちろん、地域産品を使ったオリジナルメニューを提供し、多くの方に利用されています。その隣には、キッチンスタジオもあり、地域産品を使った料理教室を開催するなど、「総合食育拠点」として活用をはじめたところです。

自然豊かな大滝区

大滝区は、「北湯沢温泉郷」としても知られる観光地であり、多くの宿泊客にご利用いただいています。ここには、全国でも珍しい、クロスカントリースキーの専用コースを整備しており、多くの愛好家や本格的な競技者にも利用されています。今年行われた平昌冬季オリンピック・パラリンピックでは、スウェーデンオリンピックチーム、カナダパラリンピックチームがここで事前合宿を行い、万全の態勢で大会に臨む姿を見ることができました。夏はコースにウッドチップを敷き詰め、陸上のクロスカントリーや、国内では大滝が始まりと言われるノルディックウォーキングのコースとしても利用されています。コース

途中には、リラックス効果や疲労回復などに効果があるとされるマイナスイオンと癒しをもたらしてくれる、通称「プチナイアガラの滝」と呼ばれる絶景ポイントがあり、利用者を楽しませています。自然をゆっくり体感しながらさわやかな汗をかいてみませんか。

また、山間地にあることから昼夜の寒暖差が大きく、秋には色鮮やかな紅葉を楽しめることで知られた地域でもあります。これからの季節、絶好の紅葉シーズンとなりますので、地域の食や温泉を楽しみながら、ゆっくりとした時間の流れを楽しまれてはいかがでしょうか。



秋の紅葉とプチナイアガラの滝



おおたき国際スキーマラソン

地方においては、厳しいことしか言われないうちにはありますが、開拓の精神を忘れず、「ピンチはチャンス」ととらえ、まちづくりに取り組んでいきます。